昭和60年度　組織的調査研究活動推進事業報告書

（マングローブ干潟漁場の有効利用について）

1.　調査活動地域名

沖縄県石垣市

2.　調査活動地域の選択理由

石垣市石垣島，竹富町西表島には本県でも有数のマングローブ干潟を有し、ノコギリガザミ等の漁場となっているが、そこでの漁業実態は不明な点も少なくない。

マングローブ干潟漁場の有効利用の一つとして、石垣市では本県で初めてのノコギリガザミ種苗放流を過去4ケ年間続けて行なうなど、マングローブ干潟の積極的な活用を模索しているところである。

しかしながら、陸域における大規模な土地改良事業の実施計画があり、マングローブ群落の乱開発も懸念されるところである。また市街地に隣接しているため、遊漁者による採介，採藻の場となっていること等、マングローブ漁場の赤土汚染対策及び漁場利用対策の面からも、マングローブ干潟漁場の諸問題を集約的に包含していると思われる。

3.　県内における選定地域の位置づけ

石垣市においては主に沿岸カツオ一本釣，底魚一本釣，延縄，追い込み網，採貝・採草等の漁業が営まれており、経営体の92％は3トン未満の漁船が占め、個人経営99％の零細漁業地域である。同地域の経営体数は減少傾向にある。しかしながら沿岸漁業生産量は年毎に変動するものの、昭和53年を境に近年微増傾向にある。（表－2）このことは漁船の大型化および漁業機器の整備等により、漁場拡大と漁獲圧力の増大によるものである。従って底魚資源や浅海魚介類資源の減少を意見するものと思われる。

同地域の沿岸漁業の振興を図るため、八重山漁業協同組合では、石垣島名蔵地先においてヒトエグサの養殖試験等を行なっている。また石垣市は漁協，水試と協力し、昭和57年以降ノコギリガザミの種苗放流を同海域で実施している。竹富町も西表島船浦に今年から試験放流を行なっている。このように、マングローブ干潟漁場は栽培漁業を推進し、積極的に漁場利用を図るべく検討されている。

4.　調査研究活動チームの構成

(1)　総括責任者

沖縄県水産試験場八重山支場　支　場　長　友　利　昭之助

(2)　研究部門担当者

沖縄県水産試験場八重山支場　研　究　員　大　城　信　弘

研　究　員　與那嶺　盛　次